

接続期（前期）

内容：友達と一緒に遊ぶ中で生じた課題を自分達で解決しながら、繰り返し遊ぶ

5歳児 11月 ドッジボール 「私まだ一回も投げてないんだよ？」



幼児の姿	内容とのつながり 及び 関連する <u>幼児期の終わりまでに 育ってほしい姿</u>
<p>外野に転がったボールをキとカキが走って何度も取りに行き、何度も投げている。同じく外野にいたショウとサキはボールを取りに行く二人を眺めているだけで、投げられずにいる。キがボールを取りに行き、投げようとする、サキが「<u>どうしてサキくんばかり投げるの？私まだ一回も投げてないんだよ？</u>」と訴えた。キは「だって僕が取りにいったんだから！」と返す。ゲームが止まってしまったため、タダキ、タヤ、タヤがみんなと相談しようと声をかけ、<u>集まって話し合いが始まった。</u></p> <p>タダキ 「どうしたの？」</p> <p>キ 「私もショウくんも投げてないのに、サキくんとカキくんばかり投げるから、私にも投げさせてほしいって言ったの」</p> <p>カキ 「サキちゃんたちもボール取りに行けばいいんだよ、何もしてないから」</p> <p>キ 「だって、そんなに速く取りにいけないもん…」</p> <p>タヤ 「でも自分が取ったボール投げたいと思う。だから、たまにあげればいい」</p> <p>キ 「それか、順番に投げるとか」</p> <p>タヤ 「でもすぐ投げんと当てれんよ。時間かかりそうや」</p> <p>タダキ 「じゃあさ、ジャンケンでいいじゃん！」</p> <p>キ 「でも、負けてばかりだったら、また投げられないじゃん」</p> <p>タダキ 「うーん…。それなら、順番でやってみる？」</p> <p>話し合いが長くなってきたこともあり、タダキの提案で、順番に投げる案を試してみるようになった。しかし、心配していた通り、ボールを順番通り渡すことに時間がかかってしまい、誰かが内野に戻ったり新しく外野に来たりすると、また順番が変わったりと、上手くいかなかった。タダキは「明日考えよう！また明日やればいいじゃん！」と話した。</p> <p><u>次の日もドッジボールをして遊んだ。昨日の反省を生かし、ボールを取った人が投げる、でも投げていない人がいたら時々譲ってあげる、といった遊び方に落ち着いたようだった。</u></p>	<p>・キが自分の思いを表現したことで、「ボールを投げられなくて困っている人がいる」という課題が生じていることに気付く。<u>言葉による伝え合い</u></p> <p>・生じた課題を自分達で解決しようと、友達を集めて相談している。<u>協同性</u> <u>道徳性・規範意識の芽生え</u> <u>思考力の芽生え</u> <u>言葉による伝え合い</u></p> <p>・この日は課題を解決することはできなかったが、繰り返し遊ぶ中で、以前のことを振り返りながら解決に向かっていく。<u>健康な心と体</u> <u>道徳性・規範意識の芽生え</u></p>